



2022-2023
国際ロータリーテーマ



イマジン
ロータリー

Rotary

ジェニファー・E. ジョーンズ

2022～2023年度 標語
「平和な未来を想像し、行動しよう。」

諫早西ロータリークラブ
会長 川野 弘茂



第1782例会 2023年 5 月 31 日例会記録 NO.40 天候 曇り後晴れ

【本 日】会員数 55名 出席 44名 欠席 8名 出欠(急病) 1名 免除 2名 出席率 84.91%
【5/24】会員数 55名 出席 45名 欠席 8名 (MU 3名) 免除 2名 出席率 84.91%

会長の時間

四つのテストの創案は七つのテスト



川野 弘茂 会長

四つのテストの創案者であるハーバート J. テーラー(ハーブ)は、やり手で卓越したセールスマンであり、人の上に立つ人物でした。ハーブは行動家で、信仰心が厚く、道義を重んじる人物でした。1893年に米国ミシガン州に生まれたハーブは、イリノイ州エバンストンのノースウエスタン大学を苦学の末、卒業しました。第1次世界大戦では米国海軍の補給部隊員として従軍しました。

1925年にイリノイ州に戻り、シカゴのジュエル・ティー社に入社、とんとん拍子に昇進しました。そしてやがてシカゴロータリークラブの会員となりました。1932年、ジュエル・ティー社の次期社長候補であったハーブは、破産寸前状態にあったシカゴのクラブ・アルミニウム社の再建を依頼されました。調理器具メーカーの同社は、倒産の瀬戸際にありましたが、ハーブはこの難事業を引き受け、危機に瀕した同社に自らの運命を託したのです。彼は、ジュエル社を辞め、これまでの給与の8割減という収入でクラブ・アルミニウム社の社長に就任しました。しかもそのうえ、運営資金に充てるため、自己資金6,100ドルを同社に投資したのです。

信仰心の厚いハーブは、同社を建て直し、大恐慌下の沈滞ムードを払拭(ふっしょく)するための手段として、社員たちに倫理的価値観の目安となる簡潔な指針を提供すべく、神の啓示を求めて祈りをささげました。社の倫理訓について構想をめぐらせたハーブは最初、およそ100語からなる文章をしたためましたが、これは長すぎると判断しました。そこでさらに推敲(すいこう)を重ね、それを7つの項目にまとめたのです。四つのテストは当初は、七つのテストだったのです。しかし、これでも長いと考えた彼は、それを自問形式の4項目にまとめ上げ、「言行はこれに照らしてから」の四つのテストが誕生したのです。

1930年代のクラブ・アルミニウム社においては、あらゆることが、四つのテストに照らして判断されたのです。四つのテストは、徐々に同社のあらゆる面における指針となっていき、ディーラーや顧客、そして従業員の間に、同社に対する信頼と好意が生まれることになりました。四つのテストは、社風の一部となり、やがて、クラブ・アルミニウム社に対する信望は高まり、財政の改善に寄与することとなったのです。1937年までに、同社の負債は完済され、

会 長／川野 弘茂 幹 事／永井 栄次 創立日／昭和60年2月20日 認証日／昭和60年3月5日
例会場／平安閣 諫早サンプリエール(毎週水曜日) 〒854-0053 諫早市小川町71-1 TEL (0957) 24-3907
事務局／諫早商工会議所内 〒854-0016 諫早市高城町5番10号 TEL (0957) 22-3323
会報委員／毎熊 正太郎・坂本 伸二・宇土 久
HP/<https://isahaya-west.com> E-mail/info@isahaya-west.com

その後の15年間では、株主に対して100万ドル以上もの配当が支払われました。また、同社の純資産は200万ドル以上に達しました。

四つのテストは、ビジネスという厳しく、変転きわまりない世界で生まれ、経済界が経験した最も過酷な時代の中で、厳密な試験を経てきたのです。それは、実業界という競争の場で生き残ってきたものなのです。

1943年1月に四つのテストを職業奉仕プログラムの一つの構成要素としました。もっとも、このテストは、今日では四大奉仕部門のすべてにおける不可欠の要素として認識されています。ハーブは、ロータリーの創立50周年記念にあたる1954-55年度、RI会長に就いた時、四つのテストの著作権をRIに移譲しています。

今こそ必要なのは倫理的誠実さ

真実かどうか－真実は不変であり、時代を超越するものです。真実は正義なくしては存在し得ません。

みんなに公平か－顔を突き合わせてとは言わないまでも、腕を伸ばせば届くような所で、激しくやり合うビジネス手法に代わり公平さを取り入れたビジネスは、お互いの関係を傷つけるよりも、その関係向上に役立ってきました。

好意と友情を深めるか－人は生まれながらにして、他者と協力して生きていく存在であり愛情を示すことは生来備わっている本能です。

みんなのためになるかどうか－この項目は、食うか食われるかを原則とする無慈悲な競争を排除するものであり、それに代わって建設的で創造的な競争を導入するものです。

四つのテストは国家という枠を超えたものであり、国境や言葉の障壁を超越するものです。そこには、政治や独断や特定の信条は介在しません。一つの倫理規範としての存在以上である四つのテストは、いかなる形であれ、人生を成功に導くための要素を含み持っています。それは今日の社会でも有効性を保持し、かつ実効性のあるものなのです。

今日のロータリーの中核には、**倫理的卓越性を使命とする四つのテスト**が存在します。人類は、共に繁栄することができのです。現代のビジネスは、誠実かつ信頼のおけるものであり得るのです。人々は、お互いを信じ合うようになるものなのです。

現代社会が今いちばん必要としているものは倫理的誠実さであると言ってもいいでしょう。四つのテストは、人々が価値ある目標を追い求める際の指針として活用できます。その目標とは、友人を探し選び、その友人関係を維持すること、周りの人たちと友好関係を築くこと、幸福な家庭生活をつくりあげること、高い倫理的・道徳的基準を設定し身につけること、自ら選択した事業や専門職で成功を収めること、より良き市民となり、次の世代にとっての良き手本となること、といったことです。

簡潔さの中に多くが語られ、感動的なまでに力強く、実のある成果を必ずもたらすこの四つのテストは、緊張と混乱と不確実性に満ちたこの世界のただ中に、清新で明るさにあふれた未来展望を与えてくれるのです。

幹 事 報 告

【例会変更】

※雲仙 諫早南ロータリークラブより

日時：令和5年6月19日(月) 12:30～ ⇒令和5年6月26日(月) 19:00～

場所：ホテルフラッグス諫早 ※定款第7条第1節(c)により ※最終例会及び合併祝賀会の為

【お知らせ】

※ガバナー事務所より

「2022-23年度 R L I 研修会修了証書送付のお知らせ」 修了証書：川野弘茂会員、原田典範会員

※国際ロータリー日本事務局より

①「ローターアクトの組織規定文書への更新(2023年)」

②「財団室NEWS 2023年6月号」

※ガバナーエレクト事務所より(次年度 久保泰正会員増強委員長宛)

2023-24年度 R I 第3地域「戦略計画推進セミナー」開催のご案内

日 時：令和5年7月9日(日) 10:30登録開始 15:50終了予定

場 所：神戸ポートピアホテル 南館1階 大輪田(〒650-0046 神戸市中央区港島中町6丁目10-1)

😊 スマイルボックス 😊

川野 弘茂君：元気会で先輩方から、たくさんの元気をもらいました。

山口 弘美君：今日も元気にがんばりましょう。

山本 健志君：今日は、次年度計画会議のご出席、宜しくお願いします。

小島 礼文君：早退します。

丸田 大樹君：すみません、早退します。

本日の合計 (5/31)	累 計 額
¥10,000	¥1,204,250

【退会のご挨拶】



立野 会員

ロータリーの友 5月号「ロータリー財団管理委員長からのメッセージ」より

私たちの無限の可能性

2022-2023 年度 ロータリー財団管理委員長 IAN H.S. RISELEY

「できる限りの善を全ての人に、できる限りの方法で、命ある限り行いなさい」

よく耳にする言葉です。この言葉は、ロータリーとロータリー財団の活動そのものを言い表していると思います。私たちはたくさんの「良いこと」を行い、さまざまな方法で世界中の人々に奉仕し、それらを長期にわたり続けています。これだけ多くの人に、これだけ多くの方法で良いことを行っている団体が、ロータリー財団の他にどれくらいあるでしょうか。

私たちは、スポンサーとしてさまざまな活動を支援するだけではなく、プロジェクトの計画と実行に時間をかけて向き合っています。ロータリークラブとロータリーアクトクラブは、私たちが活動する150以上の国と地域で信頼される存在となっています。また、専門知識が不足しているような分野では、世界保健機関(WHO)など信頼関係を築いてきた団体とパートナーシップを組み、人々の生活をより良くするために行動してきました。

他の慈善団体とは異なり、ロータリーでの人道支援活動は、うわべだけのアプローチは取りません。私たちは持続可能な方法で問題を解決します。財団プロジェクトを開始する前に、地域社会のニーズを調べ、地域社会の人々と密接に協力します。財団はまた、災害救援補助金を通じて、必要なときに即座に対応します。最近のトルコ・シリア大地震がその例です。

私のような会計士、皆さまのようなビジネスや地域社会におけるリーダーは、特に数字に細心の注意を払っていると思いますが、その点では財団も大変優れています。プロジェクトへの資金提供では、ロータリーの財務的な義務と倫理を大切に、会員がリソースを最大限に活用できるようにしています。

ロータリーは補助金の管理にも優れています。補助金のほとんどが人道支援活動に生かされ、その運営管理にかかる費用は最小限となっています。この理由から、アメリカで慈善団体の格付けを行う機関・チャリティーナビゲーターは毎年、ロータリー財団に最高の評価を与えています。

私たちの世界的な活動は7つの重点分野に直結しているため、ボランティアと寄付者には、支援が最も必要とされている場所で、変化をもたらす機会があります。ロータリー財団を通じた支援の可能性は無限です。

慈善活動を支援したい、またはできる限りの「良いこと」をしたいとお考えの場合には、ロータリー財団がまさにうってつけです。ロータリー財団は、世界で最も素晴らしい慈善団体の一つであり、皆さま自身の財団なのです。

ガバナー月信 6月号「GOVERNOR'S MESSAGE」より

過ぎし1年に「親睦」を思う

2022-2023 年度 第2740地区 ガバナー 上村 春浦

麦秋の候、皆様いかがお過ごしでしょうか。私は、いよいよガバナー最後の月を迎え、慌ただしく過ぎ去ったという感がありますが、皆様との「親睦」を深めることができた強く感じるこの1年を振り返っているところです。

今月は「ロータリー親睦活動月間」でもありますので、この1年の御礼かたがた過ぎし1年と「親睦」とについて述べてみたいと思います。

思い返せば、ジェニファー・ジョーンズ今年度国際ロータリー会長のRIテーマ「イマジン・ロータリー」及び「多様性」「公平さ」「包摂」を踏まえた会員の積極的参加の鍵としての「女性」「若者」「リーダーシップ」の強調を受けた、「『想像』して『創造』しよう…ロータリーで未来を！」の地区テーマ及び「女性会員の増強と女性会員の積極性と帰属意識とが醸成されるような環境の整備」「青少年活動の活性化」「リーダーシップ開発活動の強化」の地区活動及びクラブサポートの重点項目を掲げて、第2740地区恒例の祐徳稲荷神社にて安全祈願を行ういわゆる「鹿島立ち」の参拝を行い、各クラブへの公式訪問を開始したのは、昨年の7月12日でした。以後、10月11日迄のほぼ3か月間で当地区55のクラブ全てを訪問させていただきました。この間、地区大会の挨拶でも述べましたが、各クラブの皆様と有意義な意見交換と深い交流とを重ね「親睦」を深めることができたことは、一生の思い出となると思います。公式訪問にご協力いただいた各クラブの皆様へ改めて御礼申し上げます。



各クラブへの公式訪問が終わるとすぐ地区大会となりました。昨年の11月25日から27日で、酒井 正人RI会長代理をお迎えし、記念講演の講師は池上 彰氏としての、佐賀市での開催でした。RI会長代理歓迎晩餐会、親睦ゴルフ大会も含め、たいへん多くの方に参加いただき、盛況のうちに終えることができました。まさに、酒井正人RI会長代理がご挨拶で述べられた、ロータリー会員及びその家族が「親睦」、インスピレーション、情報、意欲を分かちあう場となり、私のロータリー人生の中でも忘れえぬ思い出として残るものと思います。地区大会の準備にご尽力いただきました、ホストクラブの皆様、コ・ホストクラブの皆様及び地区大会実行委員会の皆様並びにその他準備に参画いただいた全ての方々に改めて御礼申し上げます。

地区大会が終わり年が明け、2月に入ると、IM（インターシティー・ミーティング）が始まりました。第2740地区のグループ数は10ですが、2グループ合同のIMが4つありましたので、結局6つのIMに出席いたしましたが、いずれのIMもロータリーの現在や未来あるいは地域における口でタリーの在り方などを考えようとするもので、たいへん勉強になりました。また、各IMで皆様とお話しし「親睦」を深めることもでき誠に有意義な時を過ごすことができたと思っています。各IMの開催にご尽力いただきました、ガバナー補佐の皆様、各IM実行委員長、各ホストクラブの会長及び会員の皆様、コ・ホストクラブの皆様並びに準備にご参画いただいた全ての方々に深く感謝いたします。以上の他にも、年度を通じ、各地区委員会及びクラブで企画・実行していただいた研修・セミナー・式典等多彩な事業等に参加しましたが、皆様熱心なご活動ぶりでありたいへん感銘をうけるとともに、各会場で皆様とお話しし「親睦」を深めることができたたいへんよかったと思っています。各研修・セミナー・式典等の開催にご尽力された全ての方々に改めて感謝いたします。

私は、地区大会のRI会長代理ご夫妻歓迎晩餐会でも述べましたが、「親睦」こそロータリーの神髄であると思っています。なぜなら、「さびしかった」ポール・ハリスが職業人の間の友情と交流とを求めて始めたロータリーにおいて、世の中のあらゆる有用な職業から選ばれた裁量権を持つ職業人が、例会などの場で、職業上の発想の交換などを通じて、分かち合いの精神による事業の永続性を学び、友情を深め、自己改善を図るという、いわゆる真の「親睦」が行われたことから、「奉仕」の精神が生まれてきたと思うからです。そして、「親睦」とそれに育まれた「奉仕の心」を中核的価値観とするロータリーが、世界に広がる発展を続けているからです。頭書のとおり、6月は「ロータリー親睦活動月間」で、「ロータリー親睦活動月間」は「国際奉仕活動」に属する概念ではありますが、年度の締めくくりの月が「親睦」を冠する月間というのもロータリーの本質が何かということを巧まずして示しているように思えてなりません。

いずれにせよ、このように「親睦」の実をあげることができたこの1年は、ロータリアンとしてたいへん充実した1年でした。この1年支えていただいた地区内すべてのロータリアンの皆様、とりわけパストガバナー、ガバナー補佐、地区委員長・委員及びクラブ会長・幹事の皆様並びにガバナー事務所の地区幹事、地区副幹事、会計長、副会計長、事務局長、副事務局長、編集長、副編集長、編集委員及び事務局員の皆様に対し心より御礼申し上げます。

ガバナーの任期が終わりました後も、この経験を活かし、微力ながら、クラブ・地区の発展のために努めていきたいと思っていますので今後ともよろしくお願いいたします。